彙　報

一　京都哲学会委員の異動

京都哲学会現任委員のうち、平成元年三月末日をもって、上田閑照氏、酒井修氏、また平成二年三月末日をもって、西谷裕作氏、吉岡健二郎氏（以上ともに停年退官のため）、森哲郎氏（転出のため）が退任された。また昭和六十三年九月一日をもって、薗田坦氏（西洋近世哲学史講座助教授着任のため（平成元年十月一日付をもって教授就任））、また平成元年四月一日付をもって、筒井清忠氏（社会学講座助教授着任のため）、また平成二年四月一日付をもって、内井惣七氏（倫理学講座教授着任のため）、岩城見一氏（美学美術史学講座助教授着任のため）、仲原孝氏（宗教学講座助手着任のため）が新たに委員に加わられた。

二　平成元年度京都哲学会収支決算について

前年度繰越金	二、六一一、一七三円
本年度収入	二三七、三一九円
本年度支出	五八〇、七三一円
残額総計	二、二六七、七六一円

なお、右については、西川富雄先生（本学会会計監査）から、監査と御承認を頂いております。

三　京都大学文学部哲学科卒業論文題目

――昭和六十三年三月――

哲　学

飯島由美　フッサール『論理学研究』

清水康一　ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』の像理論について

竹島尚仁　ヘーゲルの『精神現象学』における意識の経験

松阪陽一　ウィトゲンシュタインの意志行為論

山本与志隆　前期ハイデッガーの真性の本質について

寺本義明　カント『純粋理性批判』における図式論について――構想力と図式――

橋本善永　ハイデガー『ニーチェ』における存在概念について

村上俊一　ニーチェの思想観

中村健吾　ヘーゲルの社会法則観

西洋哲学史

田中一馬　キルケゴール『死に至る病』におけるソクラテス的無知について

山脇雅夫　『精神現象学』における「自己意識」の成立

中国英明　ベルクソンの方法概念について

中国哲学史

白杉悦雄　周礼の教学制度と鄭玄の解釈
末永高康　董仲舒の災異・天人思想について

心理学

青木竜生　古典的条件づけにおける Occasion—setter の機能的特性について
赤澤寿美　着席行動と人間関係
荒川浩三　説得における対人的魅力の影響
上西哲之　説得における反復の効果について
遠藤竜馬　意味記憶と表現形式記憶の変換機制
北本満純　先行する情緒経験が援助行動に及ぼす影響
黒羽庸一　二者の対人関係と相対的位置についての実験的研究
小橋陽子　成績のフィードバックが内発的動機づけに及ぼす効果
須田俊一　意見の多様性が集団意志決定に及ぼす効果
竹内淳　1・2歳児の同輩関係の発達
竹内竜人　仮現運動の対応問題における親和力の検討
辻大介　図形の分類における範疇の形成について
中村至　社会的決定におけるパレート最適性の原理の検討
西隆宏　児童の道徳的判断の発達について
東野真和　成功場面・失敗場面での自己評価高揚・維持における社会的継時的比較の役割について
広畑玲子　パーソナリティー特性が印象形成に及ぼす影響
松井大一　道徳判断の発達に影響する要因について
井戸啓介　対象の運動における特徴統合理論の検討
大谷一博　小集団の意志決定に及ぼす成員の自律的および弁別的選択の影響
藤井泰介　パーソナルスペースと位置選択
蔵琢也　ユーモアの面白さと個人の持つ社会規範・特にイデオロギーの関係について
山手隆　疲労の質が笑いに及ぼす影響

倫理学

中村洋　カント第一批判弁証論の問題——アンチノミーの思想を中心として
松王政浩　ライプニッツの自由論
山下智志　「物質と記憶」——身体の記憶と注意的再認

美学美術史学

青山訓子　若沖の絵画の特質——動植綵絵を中心に
石川京子　芸術体験再考
川原崎隆一郎　民俗音楽学と美学

阪口真治　エゴン・シーレにおける自己の発見
田島達也　探幽様と江戸狩野
寺崎俊弘　ロジェ・カイヨワにおける美の問題
平松修治　テクノロジーと作品概念
深町英夫　後期ニーチェに於ける〈悲劇〉の概念
福井睦夫　高台寺の蒔絵遺品について
三脇康生　ジョルジュ・ルオー――輝きなき光への同化
山崎美樹　レムブラントの集団肖像画
永井久子　日本中世の寺院建築について
紀和邦明　歴史画家としてのアングル、ダヴィッドの影響をめぐって
高橋克幸　R・バルトの音楽の分析方法について
西岡真二　情動についての考察
細澤仁　イブ・クラインの作品について
堀井隆一郎　芸術に於ける種と個の関係
渡辺信行　歴史的演奏に関する音楽美学的考察

社会学

青木一彦　「軍神」をめぐる社会学的考察
安陪裕二　行為論における象徴概念の検討――パーソンズのデュルケーム解釈を中心に
伊藤真　準拠集団論の検討――R・K・マートンとJ・ワリーを中心に
大道典子　ホマンズとブラウの権力論の検討
岡本泰治　レヴィ＝ストロース構造概念の検討
唐木厚　デュルケームの宗教社会学に関する一考察
児玉英一郎　G・H・ミードを中心とする「自我」の考察
小松原竜司　ドラマツルギーにおけるパフォーマーの研究
徂徠雅夫　現代社会と官僚制
田中雅千　隠蔽行為に関する考察――ジンメルとゴフマンを中心にして――
寺岡伸悟　エスニシティ理論に関する一考察――その概念の有効性をめぐって
村王英治　レヴィ＝ストロースの「交換」に関する考察
新宮康志　マス・コミュニケーション過程における環境構成について
関口和幸　ゴッフマン社会的相互作用論に関する考察
谷川英規　ゴフマンの役割概念に関する考察
中西智　アノミー論の再検討
藤吉圭二　モースの「贈与」概念の検討
三上優　資源依存パラダイムの検討
信定行郎　現代社会におけるコムニタスの表現形態の一考察
山下秀樹　在日朝鮮人の生活環境とアイデンティティに関する社会学的考察

宗教学

荒井岳夫　マルティン・ブーバー『我と汝』についての

考察

海恵宏邦　仏教と精神分析―唯識と意識・無意識の理解を中心に

古川義人　日本民俗信仰論序説――日本民俗信仰研究の方法と課題

杉村清彦　悪の問題と象徴の哲学――P・リクール『悪のシンボリズム』第一部を中心に

西野敏行　比較と経験――ひとは身体論をこえられるか

海山宏之　知覚の共有の可能性――メルローポンティの知覚論による独我論の克服

小玉修司　実践的立場における西田哲学の現代的意味について

脇坂真弥　カント『実践理性批判』より最高善の問題を手掛りとした人間の自由・神についての考察

四　京都大学大学院文学研究科（哲学系）修士課程修了論文題目

――昭和六十三年三月――

哲　学

岩崎豪人　知覚・実在・信念――ヒューム哲学における――

寺田俊郎　意志の自律――カント実践哲学における自由概念の検討

樋口善郎　ヘーゲルに於ける精神と意識の関係について――『精神現象学』の一考察

松尾宣昭　フッサールの「本質記述」について

松田克進　スピノザ形而上学の論理

森　秀樹　形而上学としての現在――ハイデガー中期思想の成果と課題

赤井清晃　アリストテレスに於けるディアレクティケーの意味

吉本浩和　ハイデッガー哲学の展開

倫　理　学

佐藤義之　知覚の存在論――後期メルローポンディを導きとした知覚に於ける絶対性と相対性の考察

中国哲学史

柳田裕延　『四書集注』の主要論点――性理学による注釈の諸様態

Fung Kam-wing　方氏学派と三浦梅園――気の哲学の比較的考察

小笠智章　邵雍の観物思想と象数論

西洋哲学史

河野一典　アウグスティヌスにおける『創世紀』冒頭の解釈について――マニ教論駁をめぐって――

瀬口昌久　魂の国制と国家の徳――プラトン『国家』における人間と国家のアナロジー

武藤整司　物体的観念から観念の表象的実在性へ――デカルト形而上学の構想と枠組

田中今日子　プラトン『パイドン』における魂の不死の最終論証

脇條靖弘　プラトン『国家』における正義と幸福の関係

宗教学

秋富克哉　初期ハイデッガーに於ける有の思索と歴史の問題――生起・忘却・反復

長谷川新一　ニーチェの永遠回帰説

美濃部仁　フィヒテ「知識学」の構造（一七九四―一七九七）

仏教学

石田智宏　Bodhicarrāvatāra 第五章について

栗原尚道　kambala 作 Ālokamālā について

心理学

関口理久子　ネズミの時間情報処理に関する海馬の機能について

高井弘弥　乳児期における母子間のコミュニケーション活動

辻田素子　社会的活動による刺激統制の分析

南亜古　システム維持の必要性が報酬手続に及ぼす効果

金潤玉　幼児の数能力の発達

社会学

上村隆広　ルーマンの社会システム論の視座

筒井琢磨　加齢現象と社会

樋口進　現在資本主義国家における「自律性」問題――ハーバーマスとプーランツァスの所論を中心として

吉田純　アドルノの芸術社会学

美学美術史学

太田明子　R・インガルテンの美学理論――現象学的美学の考察

五　博士後期課程学修者氏名

――昭和六十三年三月――

哲学……山本精一

倫理学……渡邊啓真、田村公江

印度哲学史……狩野恭

西洋哲学史……井澤清、仲川章、脇宏行、池田洋、角谷博、丸橋裕

宗教学……神尾和寿、山本和人、Thumfart Stefan
仏教学……足立　誠
基督教学……芦名定道、山本忠義
心理学……竹西正典、吉川肇子、渋谷仁美
社会学……永井良和、馬場靖雄、藤澤三佳
美学美術史学……飯野正仁、小林信之、大宮康男、飯塚一幸

六　京都大学文学部哲学科講義題目

――昭和六十三年度――

※二回生が履修できる専門科目
〔共〕大学院と共通
〔院〕大学院のみ

哲学

講義　教授　木曽　好能　※哲学概論
研究　教養部助教授　安井　邦夫　現代論理学　〔共〕
〃　講師　常俊宗三郎　現象学の特性　〔共〕
〃　講師　神野慧一郎　実在論の弁証　〔共〕
演習Ⅰ　教授　木曽　好能　Hume: *A Treatise of Human Nature*　〔共〕
演習Ⅱ　教授　木曽　好能　Quine: *Word and Object*, 1960　〔共〕
〃　助手　浜野　研三
演習Ⅱ　助教授　西谷　裕作　Descartes: *Les Méditations métaphysiques*（倫理学と共通）
演習　講師　薮木　栄夫　Kant: *Kritik der reinen Vernunft*　〔共〕
演習Ⅲ　教授　木曽　好能　哲学の諸問題（大学院学生の発表と討論。大学院学生必修。）　〔院〕

西洋哲学史

講義　助教授　内山　勝利　※西洋古代哲学史概説
〃　助教授　山本　耕平　※西洋中世哲学史概説
〃　教授　酒井　修　※西洋近世哲学史概説
研究　教授　藤澤　令夫　プラトンの宇宙論　〔共〕
研究　人文研教授　山下　正男　中世論理学における命題の理論　〔共〕
〃　講師　稲垣　良典　中世の倫理思想（キリスト教学と共通）　〔共〕
〃　教授　酒井　修　解釈学と弁証法　〔共〕
〃　教授　廣田　昌義　Recherches pascaliennes（フランス語学フランス文学・キリスト教学と共通）　〔共〕
〃　経済学部教授　瀬地山　敏　不確実性と貨幣（社会学と共通）　〔共〕
〃　理学部教授　日高　敏隆　ヒューマン・エソロジーの問題（心理学と共通）　〔共〕

〃　教養部教授　相良　憲一　ロマン主義解釈学の諸問題　〔共〕

〃　講師　薗田　坦　無限と超越（宗教学と共通）　〔共〕

〃　講師　黒積　俊夫　経験と経験を根拠づけるもの　〔共〕

演習Ⅰ　教授　藤澤　令夫　Platon: Leges VII～　〔共〕

演習Ⅱ　教授　藤澤　令夫　Aristoteles: Ethica Nicomachea VI. 9～　〔共〕

演習Ⅰ　助教授　内山　勝利　Platon: Gorgias（西洋古典語学西洋古典文学と共通）〔共〕

演習Ⅱ　助教授　内山　勝利　Aristoteles: Metaphysica　〔共〕

演習　助教授　中務　哲郎　Xenophon: Memorabilia I（西洋古典語学西洋古典文学と共通）　〔共〕

〃　講師　小池　澄夫　Lucretius: De Rerum Natura　〔共〕

演習Ⅰ　助教授　山本　耕平　Thomas Aquinas: Summa Theol. I, q. 75, a. 7　〔共〕

演習Ⅱ　助教授　山本　耕平　Thomas Aquinas: Summa Theol. I-II, q. 6, a. 4　〔共〕

演習Ⅲ　助教授　山本　耕平　Thomas Aquinas: Commentaria in Metaphysica Aristotelis L. I, 1. 10　〔共〕

演習　講師　中川　純男　Augustinus: De Civitate Dei IV, c. 7（西洋古典語学西洋古典文学と共通）　〔共〕

〃　講師　小浜　善信　Thomas Aquinas: De Unitate Intellectus Contra Averroistas　〔共〕

〃　教授　酒井　修　G. W. F. Hegel: Wissenschaft der Logik.　〔共〕

〃　講師　木村　彰吾　Edmund Husserl: Cartesianische Meditationen.　〔共〕

〃　講師　山形　頼洋　Henri Bergson: Matière et Mémoire.　〔共〕

講読　講師　山野　耕治　W. Jaeger: Paideia, die Formung des griechischen Menschen. Bd.　〔共〕

〃　講師　朴　一功　Platon: Apologia Socratis

〃　講師　飯塚　知敬　※ Anselmus: Proslogion

〃　助手　小澤　和道　※ Augustinus: Soliloquia I, c. 6（キリスト教学と共通）

〃　教授　酒井　修　※ G. W. Leibniz: Principes de la Nature et de la Grâce

印度哲学史

講義　助教授　徳永　宗雄　※インド思想史
研究　助教授　徳永　宗雄　古典ヨーガ体系の研究　〔共〕
〃　人文研助教授　井狩　彌介　ウパニシャッドの諸問題（仏教学、梵語学梵文学と共通）〔共〕
〃　講師　原　実　古代インド叙事詩の世界〔共〕
〃　講師　永ノ尾信悟　ヴェーダ祭式研究　〔共〕
演習　助教授　徳永　宗雄　Mahābhārata, Sabhāparvan　〔共〕
〃　助教授　小林　信彦　サンスクリット演習Ⅰ（梵語学梵文学と共通）〔共〕
〃　講師　黒田　泰司　Arthasaṃgraha　〔共〕
講読　助教授　徳永　宗雄　インド学研究動向　〔共〕
語学講師　正信　公章　※サンスクリット文法（各学科共通サンスクリット語、仏教学、西南アジア史学、梵語学梵文学と共通）

中国哲学史

講義　教授　内山　俊彦　※中国哲学史概説
研究　教授　内山　俊彦　中国古代の歴史意識　〔共〕
〃　助教授　池田　秀三　応劭の学問と思想　〔共〕
〃　人文研教授　吉川　忠夫　唐代の士大夫と仏教（仏教学、東洋史学と共通）〔共〕
研究　教養部助教授　西脇　常記　僧伝の諸相　〔共〕
〃　講師　山口　久和　王夫之の朱子学批判　〔共〕
〃　講師　溝口　雄三　中国思想史における「近代」の諸問題　〔共〕
演習　教授　内山　俊彦　周易注疏　〔共〕
〃　助教授　池田　秀三　『通典』礼典　〔共〕
〃　人文研教授　尾崎雄二郎　説文解字注（中国語学中国文学と共通）〔共〕
〃　人文研助教授　麥谷　邦夫　神清『北山録』　〔共〕
講読　助手　武田　時昌　※経学歴史

心理学

講義　教授　清水御代明　※心理学概論
〃　教授　平野　俊二　学習心理学
〃　教育学部教授　坂野　登　人格心理学（教育学部と共通）
研究　教育学部助教授　岡田　康伸　概念の獲得　〔共〕
〃　助教授　苧阪　直行　周辺視機構論　〔共〕
研究　理学部教授　日高　敏隆　ヒューマン・エソロジーの問題

〃　教養部教授　木下　冨雄　群衆の行動　〔共〕
〃　教養部教授　村井　潤一　発達心理学　〔共〕
〃　教養部助教授　江島　義道　視覚の心理学　〔共〕
〃　教養部助教授　河野　敬雄　数理統計学特論　〔共〕
〃　講師　生澤　雅夫　行動科学におけるデータ解析　〔共〕
〃　講師　大山　正　知覚心理学　〔共〕
〃　講師　高橋　澪子　心理学史　〔共〕
〃　講師　田中　國夫　社会心理学（教育学部と共通）　〔共〕
〃　講師　内田　伸子　言語の理解と産出（教育学部と共通）　〔共〕

演習
教授　平野　俊二
教授　清水　御代明
助教授　芋阪　直行
心理学演習Ⅱ

〃　教授　平野　俊二　心理学演習Ⅰ

〃　教授　平野　俊二
教授　清水　御代明
助教授　芋阪　直行
心理学特殊実験（実験乙）

実習
教授　平野　俊二
教授　清水　御代明
助教授　芋阪　直行
助手　塩坪　いく子
※心理学基礎実験（実験甲）

〃　講師　住田幸次郎　※統計基礎実習

講読
助手　塩坪いく子　外書講読

演習
教授　平野　俊二
教授　清水　御代明
助教授　芋阪　直行
現代心理学の諸問題　〔院〕

倫理学

講義
助教授　西谷　裕作　※倫理学概論

研究
教養部教授　竹市　明弘　日常性と超越——魂の形成——　〔共〕

〃　教養部助教授　有福　考岳　行為と主体性の問題　〔共〕

〃　講師　塚崎　智　社会契約論の問題　〔共〕

演習Ⅰ
助教授　西谷　裕作　倫理学の諸問題（倫理学専攻四回生以上は必修）　〔共〕

演習Ⅱ
助教授　西谷　裕作　Descartes: Les Méditations métaphysiques（哲学と共通）　〔共〕

演習
教養部教授　山本　誠作　A. N. Whitehead: Religion in the Making（宗教学と共通）　〔共〕

〃　教養部教授　磯江　景孜　Kant: Grundlegung zur Metaphysik der Sitten　〔共〕

〃　講師　深谷　昭三　M. Scheler: Wesen und Formen der Sympathie　〔共〕

講読　助教授　西谷　裕作　W. James Pragmatism〔共〕
〃　講師　桝形　公也　S. Kierkegaard: Die Krankheit zum Tode（übersetzt von L. Richter）（キリスト教学と共通）〔共〕

美学美術史学

講義　教授　吉岡健二郎　※美学概論
〃　教授　清水　善三　※日本美術史概説
研究　教授　吉岡健二郎　フィードラー再考〔共〕
〃　教授　清水　善三　肖像彫刻の研究〔共〕
〃　助教授　佐々木丞平　日本文人画の流れ〔共〕
〃　教養部教授　乾　由明　十九・二十世紀フランス絵画史〔共〕
〃　人文研助教授　曽布川　寛　中国石窟寺院の研究〔共〕
〃　講師　太田　孝彦　室町水墨画の研究〔共〕
〃　講師　宮　次男　日本の説話画〔共〕
研究　講師　勝　国興　北方ルネサンスの絵画〔共〕
演習Ⅰ　教授　吉岡健二郎〔〃〕　助教授　清水善三〔〃〕　佐々木丞平〔〃〕　美学美術史学の諸問題
演習Ⅱ　教授　清水善三〔〃〕　助教授　佐々木丞平〔〃〕　助手　中村俊春〔〃〕　原口志津子〔〃〕　美術史学の実地指導〔共〕

講読　助教授　佐々木丞平　日本近世絵画史料選読
〃　講師　篠原　資明　Mikel Dufrenne: Phénoménologie de l'expérience esthétique
〃　助手　中村　俊春　Götz Pochat: Geschichte der Ästhetik und Kunsttheorie
演習Ⅰ　教授　吉岡健二郎〔〃〕　助教授　清水善三〔〃〕　佐々木丞平〔〃〕　美学美術史学研究の諸問題〔院〕

社会学

講義　教授　中久郎　※社会学概論
〃　教授　宝月　誠　社会人間学
研究　教授　中久郎　行為理論と集合理論〔共〕
〃　東南ア研教授　坪内　良博　人口社会学の基本問題〔共〕
〃　教養部助教授　高橋　三郎　平和研究の諸問題〔共〕
〃　教養部助教授　高沢　淳夫　公共空間の実証的研究〔共〕
〃　人文研助教授　富永　茂樹　トクヴィルを読む・二〔共〕
研究　経済学部教授　瀬地山　敏　不確実性と貨幣（西洋哲学史と共通）〔共〕
〃　教養部教授　米山　俊直　都市人類学〔共〕
講師　中野秀一郎　ポスト・パーソンズ社会学の諸

〃	講師	井上 俊	日常生活と知識社会学 〔共〕
〃	講師	磯部 卓三	道徳意識の社会学 〔共〕
〃	講師	中道 実	社会調査法 〔共〕
〃	講師	筒井 清忠	比較歴史社会学の検討（現代史学と共通） 〔共〕
演習Ⅰ	教授 教授	中久保 宝月誠	社会学の諸問題（4回生以上は必修）
演習Ⅱ	教授	中久保	社会学方法論
演習Ⅲ	教授	宝月誠	社会人間学の諸問題
講読	教授	宝月誠	独書講読（Max Weber, "Soziologische Grundbegriffe"）
〃	助手	山下雅之	英書講読（Jeffrey C. Alexander, "Twenty Lectures"）
演習	教授 教授	中久保 宝月誠	現代社会学の諸問題 〔院〕

比較社会学

演習	併任教授	坪内良博	比較社会学の諸問題 〔院〕
研究	併任助教授	筒井清忠	比較歴史社会学の視座 〔院〕
〃	東南アジア研究教授	前田成文	文化形成論序説 〔院〕
〃	講師	新睦人	比較社会学特論 〔院〕
演習	助教授	金田章裕	地域の諸問題（地理学と共通） 〔院〕

宗教学

講義	助教授	長谷正当	※宗教学概論
研究	教授	上田閑照	「場所」論と宗教哲学 〔共〕
〃	講師	薗田坦	無限と超越（西洋哲学史と共通） 〔共〕
〃	講師	幸日出男	神学と宗教史（キリスト教学と共通） 〔共〕
演習Ⅰ	教授	上田閑照	M. Heidegger: Vom Wesen der Wahrheit 〔共〕
演習	教養部教授	山本誠作	A. N. Whitehead: Religion in the Making（倫理学と共通） 〔共〕
〃	講師	田中英三	H. Bergson: Les deux sources de la morale et de la religion 〔共〕
〃	講師	川村永子	H. Thielicke: Glauben und Denken in der Neuzeit（キリスト教学と共通） 〔共〕
〃	講師	永見潔	Hegel: Die Vorlesungen über die Philosophie der Religion 〔共〕

講　読　助教授　長谷　正当　S. Weil: Intuitions pré-chrétiennes　〔共〕
〃　助　手　森　哲郎　R. Otto: Das Heilige（キリスト教学と共通）　〔共〕
演習Ⅱ　教授　上田　閑照　助教授　長谷　正当　宗教哲学の諸問題（院生必修）　〔院〕

仏教学

講　義　助教授　御牧　克巳　※インド・チベット仏教思想史
研　究　助教授　御牧　克巳　チベットに伝わるインド唯識思想の研究〔共〕
〃　人文研教授　吉川　忠夫　唐代の士大夫と仏教（東洋史学、中国哲学史と共通）　〔共〕
〃　人文研助教授　井狩　彌介　ウパニシャッドの諸問題（インド哲学史、梵語学梵文学と共通）　〔共〕
〃　講　師　丹治　昭義　中観思想研究　〔共〕
〃　講　師　湯山　明　仏教文献学の方法　〔共〕
演　習　助教授　御牧　克巳　梵語仏典選集　〔共〕
〃　講　師　榎本　文雄　パーリ語文選　〔共〕
講　読　助教授　御牧　克巳　E. Lamotte, *Histoire du bouddhisme inden* 又は E. Frauwallner, Die Philosphie des Buddhismus 或は両方　〔共〕

語　学　講　師　正信　公章　※サンスクリット文法（各学科共通サンスクリット語、インド哲学史、梵語学梵文学、西南アジア史学と共通）
〃　講　師　武内　紹人　※チベット語初級（各学科共通チベット語と共通）　〔共〕

基督教学

講　義　教　授　水垣　渉　※キリスト教思想の基礎Ⅱ
研　究　教　授　水垣　渉　信と行〔共〕
〃　教　授　広田　昌義　Recherches pascaliennes（西洋哲学史・フランス語学フランス文学と共通）　〔共〕
〃　講　師　幸　日出男　神学と宗教史（宗教学と共通）　〔共〕
〃　講　師　稲垣　良典　中世の倫理思想（西洋哲学史と共通）　〔共〕
〃　講　師　森田雄三郎　哲学者の神の問題　〔共〕
演　習　教　授　水垣　渉　キリスト教学基礎演習Ⅰ（Ch. Dawson: The Dividing of Christendom）　〔共〕
〃　教　授　水垣　渉　キリスト教学基礎演習Ⅱ　〔共〕
〃　教　授　水垣　渉　Origenes: Commentarii in Ioannem II　〔共〕

〃　講師　勝村　弘也　古典ヘブル語文法及び「五書」原典講読（I Weingreen: A Practical Grammar for Classical Hebrew）（西南アジア史学と共通）〔共〕

〃　講師　川村　永子　H. Thielicke: Glauben und Denken in der Neuzeit（宗教学と共通）〔共〕

講読講師　桝形　公也　S. Kierkegaard: Die Krankheit zum Tode（倫理学と共通）〔共〕

〃　助手　森　哲郎　R. Otto: Das Heilige（宗教学と共通）〔共〕

〃　助手　小澤　和道　※ Augustinus: Soliloquia I, c. 6（西洋哲学史と共通）

七　重澤俊郎名誉教授の御逝去

会　告

京都大学名誉教授、文学博士重澤俊郎先生は、御療養中の所、一九九〇年五月二一日午前〇時四〇分、逝去された。享年八三歳。

先生は、一九〇六年一二月一三日、東京に生れられ、東京府立第一中学校・静岡高等学校を経、一九三二年三月、京都帝国大学文学部哲学科（支那哲学史専攻）を卒業された。静岡高校では、加藤常賢博士（のち東京大学教授）の漢文の授業を聴講、京都帝大では、小島祐馬博士に師事され、小島博士の人と学とに傾倒された。

先生は、大学卒業後、大学院で研鑽を重ねられるとともに、一九三三年三月より一九三五年九月まで、東方文化学院京都研究所助手を勤められ、一九三五年九月、第三高等学校講師、翌年三月、同教授となられた。一九四二年三月、京都帝国大学文学部助教授に任ぜられ、一九五〇年二月、論文「経学研究」をもって京都大学より文学博士の学位を取得、同年四月、京都大学文学部教授に補せられ、一九七〇年四月、停年により退官された。京都大学御在職中、長期にわたり、支那哲学史（のち中国哲学史）の講座を掌られ、斯学の研究、学界における活動とともに、後進の指導・誘掖に尽瘁された。

先生の学問は、経学や、先秦・漢代の思想の考究を中心とされた初期に始まり、研究範囲を次々に拡大され、六朝・唐代や清代の思想・学術等、極めて広汎な領域にわたる御業績を公にされた。近・現代中国の思想にも、常に御関心を寄せられた。緻密な読書、精確な考証を基礎としつつ、中国哲学史全体の潮流を把握すること、そして、哲学史の法則、学問研究の目的といった根本問題に深く意を注ぐこと、それが、先生の一貫された姿勢であり、先生の若々しい問題意識は、晩年いよいよ旺盛であられた。日中の学術交流に早くから貢献され、また、日本学術会議会員（一九七二～七八）として学問の自由のために尽力されたことも、先生の学者としての御識見をよく示すものである。

先生の遺された御業績には、『左伝賈服注捃逸』（一九三六）『周漢思想研究』（一九四三）『中国四大思想』（一九四七）『原始儒家思想と経学』（一九四九）『古代諸思潮の成立と展開』（一九四九）『支那古代に於ける合理的思惟の展開』（一九五六）『漢代における批判哲学の成立』（一九五七）『中国哲学史研究』（一九六四）『中国歴史に生きる思想』（一九七三）『中国の伝統と現代』（一九七七）その他の御著書と、多数の御論文がある。『哲学研究』には、「支那に於ける文芸復興論と経学」（二九巻四冊）等、数篇を寄稿されている。また、本会委員としても、会の運営に力を致された。

ここに、在りし日の先生を偲びつつ、御長逝を衷心より哀悼申し上げる次第である。